



緑地の残るスプロール地帯におけるエココミュニティ拠点の創造

Creation of ECO-community base in the sprawl area, that leaves green zone

神奈川大学大学院工学研究科建築学専攻重村研究室
Shigemura Laboratory, Graduate Course of Architecture and Building Engineering

成田 佑弥
NARITA Yuya

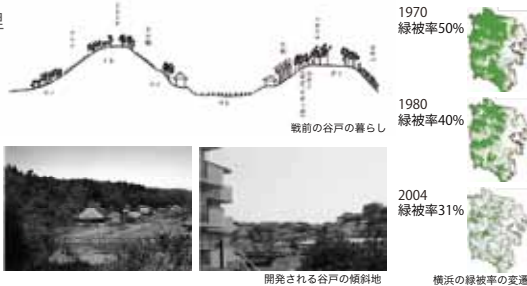
01- 背景と目的

日本で培われてきた農業文化には、生命循環を生んできた潜在的な力がある。
そこには、環境問題・地域コミュニティの衰退など、現代社会が抱える問題を解決する糸口があると考えられる。
そこで本研究では、横浜での緑地が多く残る要因である典型的な地形「谷戸」に着目し、谷戸における都市環境タイポライズを行い、その中でも自然を活かしたコミュニティ活動によって環境共生を築こうとしている都市農地共生タイプに焦点をあてて研究を行った。
横浜市緑区新治町を研究調査対象地域とし、地域コミュニティの活動の広がりや地域課題の抽出から、さらなる地域と自然とが強い結びつきを築いていくための拠点を、小学校、地域コミュニティの活動の場、都市機能の複合体として提案した。

02- 関東の市街地における環境資源としての「谷戸」

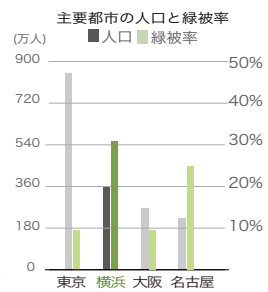
02-1. 谷戸の変遷

戦前の谷戸では、低地の農地と傾斜地の里山を持った構成の集落を形成し、自然との豊かな共生を築いてきた。
しかし戦後以降、生産効率の低さと、都心への近さから市街化の対象となり、建物で覆い尽くされるようになった。横浜の谷戸でも市街化による緑地減少から、緑被率は過去30年間で40%減少している。



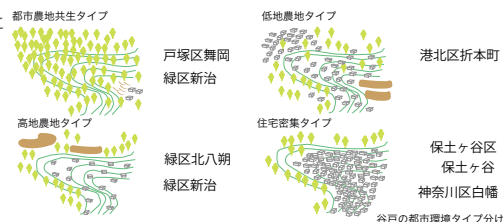
02-2. 緑の多い都市ー横浜ー

しかし、横浜の緑被率と人口の比率を他の主要都市と比較すると、横浜は人口の多い都市でありながら、緑地の多い事が分かる。その理由として、谷戸地形が台地に低地が入り込み、入り組んだ谷状の地形をなしているため、大規模な開発に不向きである事が挙げられる。そのため、横浜の谷戸では至る所で市街地と緑地が混ざりあっている風景が存在する。



02-3. 緑地と谷戸の都市環境タイプ

横浜の谷戸では、都市住民の生活基盤となっており、市街化と地形の関係から都市と緑地、農地との混在する風景の違いが見られる。それらの特徴的な風景の現れ方は4タイプに分類する事が出来る。



02-4. 都市再編の萌芽ー都市農地共生タイプー

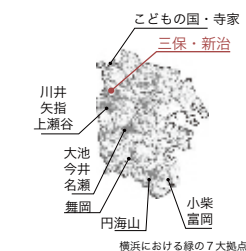
その中でも、都市農地共生タイプでは市民活動による里山活用などのきめ細やかな緑地保全が行われ、健全な緑地を残し、緑に触れられる余暇空間を創出している。これらの活動は、参加する地域住民の主体的な活動によって持続、発展されており、環境共生による都市再編を築くための萌芽として捉える事が出来る。



03- 調査対象地区ー新治ー

03-1. 横浜市新治町

そこで、都市農地共生タイプの中でも市民活動の定着がされて間もない横浜市緑区新治町を調査対象地区と設定する。
新治は、農村部の残された大きな自然と1970年代から行われた市街化がせめぎあう敷地であり、次の特徴がある。



03-2. 地域団体、学校教育による環境共生

新治町での環境共生は地域団体と学校の教育による、新治市民の森・梅田川などの自然資源の活用・保全によって行われている。



03-3. 食べ残しによる自然と市街地の無関係な境界>

新治の自然は開発の食べ残し状態にあり、市街地と自然の境界は相互関係を取り結ばない形で現れ、至る所で無関係な境界が露になっている。





04-1. エココミュニティ拠点の定義

この施設に、地域住民がふとした時に立ち寄れるようなプログラムを付随させる事で、都市・自然間を結びつけるきっかけを増やし、自然への介入を促す。

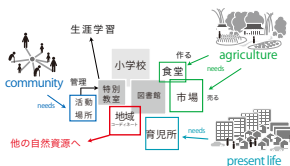
建築としては機械的な建物の構成によって閉鎖的なものとなっており、隣り合う田畑に対して無関係な状態を作っている。



敷地概要
住所:横浜市緑区新治町768番地
用途地域:市街化調整区域
建ぺい率50%容積率80%

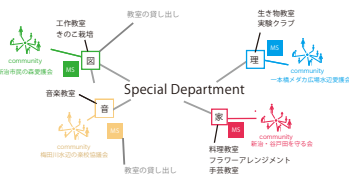
<小学校+生活支援施設+市民活動団体補完施設>

プログラム設定は、地域住民である都市住民、農家、市民活動団体の3者の要求から導き、学校＋生活支援施設(保育所/市場/リサイクルセンター/地域コーディネート)＋市民活動団体補完施設とする。市民活動団体には場を提供する代わりに、特別教室群の管理を委託し、生涯学習など多彩な活動が行え、自然に親しむプログラムの増幅を生む。



< 活動団体 + 特別教室 >

市民団体の補完施設を活動内容と見合った教科の特別教室に隣接して作り、市民団体が子ども達の学習へ関わりを作る。活動団体に特別教室の管理を委託する事で、タイムシェア、多彩な生涯学習の実施を可能とする。



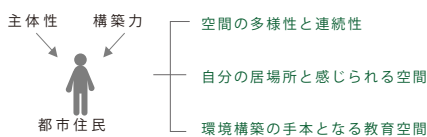
<託児所 + 市場 + 図書館>

プログラムに市場や図書館など生活・趣味に関わる都市住民の要求を入れる事で多くの都市住民を引き込む。それにより目的とは異なるアクティビティを喚起し、地域循環やコミュニティへの参加のきっかけ作る。



地域住民の地域の担い手としてによる自然と都市の結びつきを作れるように地域住民の主体性、構築力を養える空間をつくる。

そこで、そのような能力を生む為に異なるモノが関係しながら連続する多様な空間、自分の場と感じられる小さな空間、環境構築の手本となる空間という3つの特徴を形成しながら建築を作り上げる。



06- 空間構成

06-1. 空間の多様性と連続性

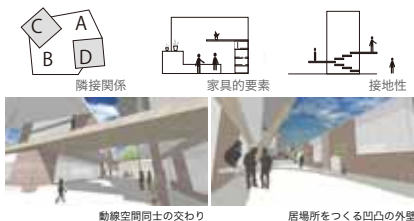
多様な空間と活動が作り出す連続的な風景を作り、周辺との調和を含めた空間のまとまりを作るため、「環境構造線を引く／ゾーニングを周辺環境から導く／ランドスケープによってまとめる。」という3つの手法から多様な空間の連続性をつくる。

それにより、「周辺の活動を引き込む／風景の調和／プログラムの秩序を考慮した配置計画を与える」ことが空間に現われ、地域の中心的な場を作り出す。



06-2. 自分の居場所と感じられる空間

隣接関係、家具の要素、接地性を考慮しながら設計を行い、家のような居場所となる空間を設計に組み込む。それにより、ユーザーの主体的な使われ方や、カスタマイズなどが容易にできる環境を用意する。



06-3. 環境構築の手本となる教育空間

新治で採取可能な資源の木・土・竹を製材、加工方法の種類と、工法による組み合わせから素材・工法のバラエティによる構築方法を提示できる空間をつくる。それによって地域住民の居場所づくりの手本となり、空間づくりの力を養う。

	木				土			
	丸太	角材	板	集成材	版築	粘土	レンガ	
床	模数敷	縦置き	平置き	床・土間	土間	土間	レンガ敷	
	断面敷き 縦置き	縦置き	断面置き		土間 段差付	土間 段差あり	レンガ敷 段差あり	
	断面敷き 縦置き 長手通し	横置き 段付き	断面置き 上端カシ		土間 起伏付き	コンタ	コンタ	
壁	横積み	縦置き 配列	家具	柱	版築 開口付	土壁		
	断面積み 配列	横置き 配列積	大断面積	アーチ	版築 上部傾斜	土壁浮	アーチ積	
	柱	柱	横並び		版築 アール		柱	
架構	大梁	グリッド 組み	仕上げ材	大スパン 梁		HPシェ	アーチ	
	ラーメン	縦吊り				アーチ	ドーム	
		トラス 組み				ドーム		



コアマテリアルとコアコード（抜粋） メディアスペースのスタディ

07- 平面構成

07-1. 全体計画

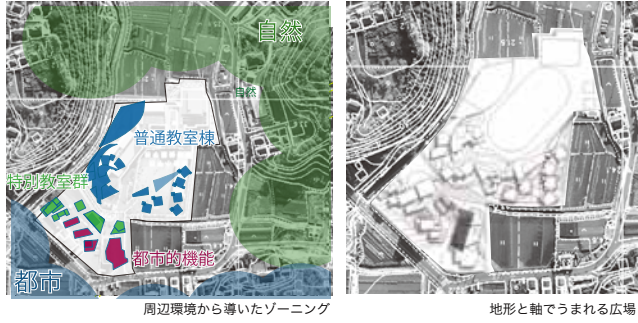
ゾーニングを周辺環境から導く

計画対象敷地が都市と自然の接点という所を活かし、都市側に生活支援施設、自然側に小学校の機能を配置し、生活支援施設への入りやすさと小学校への入りにくさを作る。

その両者のシェア空間として特別教室、図書館を都市側に配置し、地域の受け皿として解放する。

ランドスケープ

構造線と地形を活かしたランドスケープによって多様な空間の連続性をつくる。敷地内にある高低差 / 流れる小川を利用した広場の創出から周辺の市民活動へとつながる敷地内外の連続する関係をつくる。 交差点や道と建物がぶつかる場に、周辺状況から設定した外部空間を配置し、緑の連続する風景も作る。



07-2. 特別教室棟

特別教室棟では、市民活動の拠点や公共的な機能と複合する事で、地域交流を促す。

空間構成では道路に接する場に一本橋メダカ広場との連続性を考慮し、手前に、表通りと市場広場を作り、公共機能を配置する。そこから延長される路地空間に特別教室群を配置する。

特別教室では外部空間とそれぞれの活動が組み合わさるように形態を替え、テーマに沿った教室をつくる。

普通教室棟とは川を挟むアクセスをもうける事で、自然の調和を作りながら、複合する機能との柔らかい区別化をはかる。

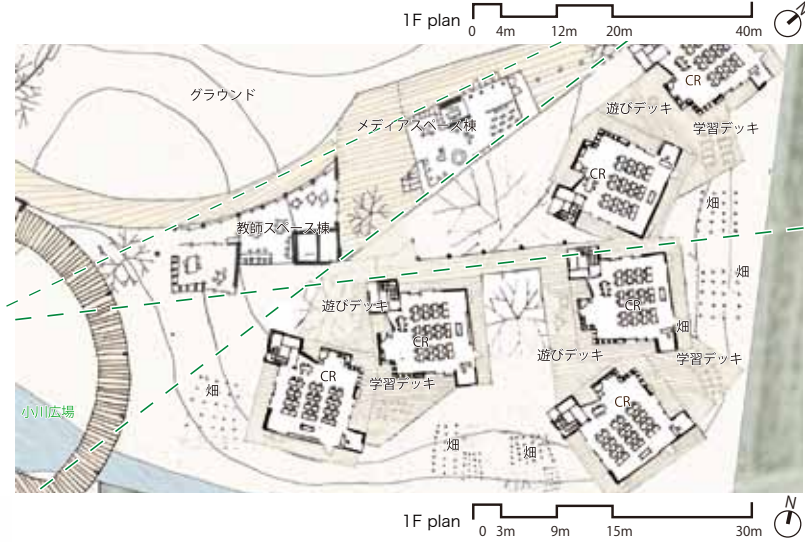


07-3. 高学年棟

高学年棟では2クラス1ユニットのデッキ付き分棟教室の構成で作られている。

クラスルームでは自分たちの作品の展示が出来るアプローチ、棚、2階建てワークスペースを持ち、それぞれの居場所として愛着が湧くようなカスタマイズを可能とする空間を作る。

外部空間には自主栽培できる畑や、デッキと庇で作られた、大人数、少数での遊び、学びに対応する空間を作り出す。



08- 断面 / 立面構成

08-1. A-A' 断面図



08-2. 西南側立面図



09- 立体表現

09-1. 空間の多様性と連続性



一本橋メダカ広場とのつながりを意識した表通り



特別教室が並び、地域コミュニティによるにぎやかさを生む川辺通り



支援施設と小学校を結ぶ広場となっている小川広場

09-2. 自分の居場所と感じられる空間



軸線の交わる所に現れる広場空間



メディアスペース入り口の家具



川に向かって歌う音楽室



学びと遊びの2種類のデッキ

09-3. 環境構築の手本となる教育空間



クラスごとの畑による、自然学習



新治愛護会のおじさんと外で工作教室



校舎に囲まれたような低学年広場



市場の賑わいをみせる市場通り

10 - 自然と都市を繋ぐエココミュニティの展開

本計画のプログラムと空間により、地域住民の活動への意識や環境づくりへの力が芽生え始める。そして、周辺に広がる自然、都市に埋もれた地域資源を新たな活動の場へと姿を変え、小さい拠点群の広がりはいいつながり、全体として地域を支えながらまとめて行く。



10-2. おわりに

本計画では、自然環境を活かした小学校を多様な機能と合わせて設計し、都市と自然との新しい関係を構築した。また、環境づくりに対する地域住民の構築力と主体性を養う空間づくりを行った。それによって、自然と都市は結びつきを強め、活動の増幅と広がりをもたらしながら、地域と住民の新しいあり方を生んでゆく。